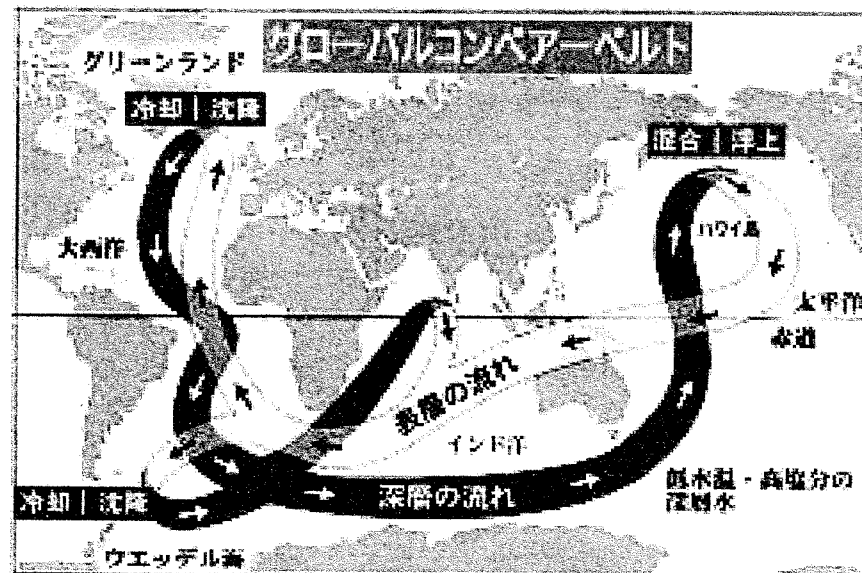


## 海水の変化 2

海の深層（深さ数千メートル）には、地球規模の流れがあり、“海洋深層循環”と呼ばれ、下図のような流れになっています。海洋深層水と言え、飲料水や食品などの表示でも見かけますが、こちらは水深 200 m 以上の海水だそうです。海洋深層循環は、塩分濃度や温度の違いにより、北大西洋の高緯度地域や南極大陸沖で深層に沈み、太平洋やインド洋で浮上する大規模な循環で、1000 年～2000 年で一周するそうです。



この循環により、暖かい水と冷たい水の交換が起こり、ヨーロッパが比較的温暖な気候に保たれ、熱帯地域も過酷な暑さを避けることができているのだそうです。ところが、地球温暖化により、海水が高温化したり、降水量の増加や水の融解などで塩分濃度が薄くなり、今世紀中にこの海洋深層循環が弱くなるのではないかという説があります。

私たち人間の生活が海に影響することもあるれば、逆に海から影響を受けることもあるようです。最近の豪雨や大型台風なども無関係ではないかもしれません。しかしながら、深海は、未知の部分が多く、今後いろいろと解明されていくことが期待されます。

《参考資料》 気象庁・国立環境研究所

《Ms. W》

## 中学生対象ボランティア入門講話



9月9日(月) 古賀中学校に伺ってお話しをしてきました。古賀中学校の3年生は、「地域ボランティア」というテーマで、ボランティアを通して、自分が住んでいる地区への郷土愛を養うことを目的に学習に取り組んでおられるとのことでした。そこで、実際にボランティア活動を体験する前の前段階として、実際の活動の紹介をはじめ、ボランティアの歴史や原則等を踏まえたボランティア活動の意義についてお話しをしました。

### ボランティア三原則+1

- 自発(自主)性
- 無償(無給)性
- 利他(社会 公共 公益)
- +
- 先駆(先見 創造 開拓)



生徒にとっては、給食後、体育館に座った状態での講話でしたが、良く聞いてくれていたと思います。翌日には、大根川沿いの清掃に取り組んだと聞いています。それには地域コミュニティの方や、行政の方のお手伝いもあったことでしょう。近い将来、私たちの地域を担う子ども達が、自主的に地域を改善する行動に至ったらこんなに心強いことはありません。

《S》

## しろくまプロジェクト 訪問校が決まりました



みなさんのご寄付で、学校に出前環境講座を行う「しろくまプロジェクト」。以下の訪問校が決まりました。スタッフ一同はりきっています。

学校名・学年	実施時期	主な内容
飯原小学校4年生	11月 1日	詳細未定
福間小学校1～6年生	11月16日	しろくますごろく(親子)
香椎小学校5年生	11月 下旬	鍋炊飯
千鳥小学校5年生	11月29日	廃油せっけん(親子)
新宮小学校4年生	1月29日	雑がみ工作

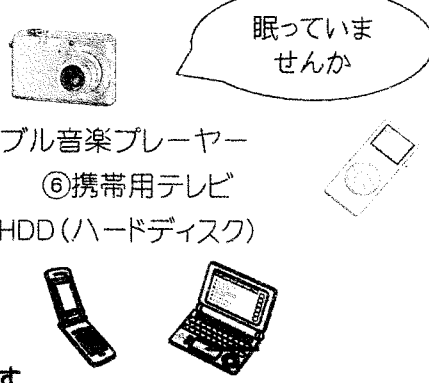
※表の内容は、現時点の予定です。

## 古賀市・福津市では10月1日から小型家電の回収が始まります!

165号で紹介した小型家電の回収が、古賀市・福津市でも始まることになりました。回収はレアメタル(稀少金属)の有効利用と環境汚染防止を目的とされているそうです。集められたものは、所定のリサイクル工場では有用な金属を取り出し、製品に再利用されます。使わなくなった対象品は、この回収を利用して有効利用へのルートに乗せたいものですね。

### 対象品目 25cm×10cm以下の家電品

- ①デジタルカメラ ②ビデオカメラ ③ポータブル音楽プレーヤー
- ④ポータブルDVDプレーヤー ⑤携帯用ラジオ ⑥携帯用テレビ
- ⑦小型ゲーム機 ⑧電子辞書 ⑨電卓 ⑩HDD(ハードディスク)
- ⑪リモコン ⑫携帯電話 ⑬電子機器附属品



### 回収場所 下記に専用の回収ボックスを設置してあります。

設置場所	受付時間	受付不可日(施設閉庁時)
古賀市役所環境課窓口	8:30~17:00	土・日
ひだまり館内(隣保館)	8:30~17:00	日
リーパスプラザ研修棟内	9:00~22:00	第1、3、5月曜日 (祝祭日の場合は翌平日)
福岡庁舎ロビー 津屋崎庁舎2Fうみがめ課前		

- ### 注意点
- 13品目以外の小型家電は、分別収集時に「金物」に。
  - 乾電池は必ず抜いて。
  - 個人情報データは自分で消去して。

《S》



**つれづれ草枕 9月**  
**名月や 赤子あやして 夜もすがら** 《日女》  
 初孫 かわいい! よしよし  
 日々 重くなる! どんどん  
 腕 だる~い! ぶるぶる



るんるん♪ごみ拾い ※まつり会場でのごみ拾いゲームです  
**11月 17日(日) 10:00~15:00 まつり古賀**

## 未来を創ろうインタビュー

No.30 フリーライター、福岡教育大学非常勤講師  
**森 千鶴子 氏**

宗像市のイチゴ農家で育った森さんは、都会でコピーライターとして活躍された後、九州に戻り、現在は食と農を伝えるお仕事をされています。

昨年、福岡市天神のビルの屋上でペットボトルイネを育てる「たのしイネ」のイベントがきっかけでお会いしたのがお付き合いのきっかけですが、現在はエコけんの賛助会員さんという身内でもあります。

もともと寒いヨーロッパの果実であるイチゴの旬は5月から6月ですが、私たちが普段口にするハウス栽培のイチゴの旬は2月だそうです。バック詰めの苦労や、市場のニーズに合わせて、たくさんのエネルギーを使って行う促成栽培の矛盾もお聞きしました。1年中スーパーに夏野菜であるきゅうりが並んでいるのは、良く考えたらおかしいことです。私たちが普段あたりまえと思いこんでいる事を考え直すことが、必要なのではないかとお話しされていました。

また、子ども達へ食のお話をされる時、子ども自身に栽培体験があれば、作り手の思いを想像できると言われました。土のない所で生活している子ども達が増えている今、植物や作物の栽培体験は大切だと伺いました。

Q. 未来のために今何が重要だとお考えですか

A. “あたりまえ”と思っている事を、もう一度考え直すこと。

Q. そのために

ご自身で心がけておられることは

A. あたりまえの裏側を想像する。  
 何でもいいので、自分で栽培してみる。



### 未来を創るメッセージ

自分と家族の食べものを作ることでできる人になる。  
 作る楽しさを伝える。

日本各地で講演され、新聞にコラムを書かれるなど忙しい森さんですが、なんと今年の春から九州大学の大学院生でもあります。撮影に入ったスタッフと二人、お話しに引き込まれてしまい、気がつくと長時間のインタビューになってました。ふわっと優しい雰囲気でありながら熱くお話しされ、男女年齢問わず多くの方から支持されるのも納得でした。

《Yっち》